

事例番号:350264

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記すべき事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 3 日

14:00 硬膜外無痛分娩、分娩誘発のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 4 日

8:00- オキシトシン注射液で分娩誘発開始

11:00 陣痛開始

12:20- 硬膜外麻酔開始

子宮頻収縮を認める

16:30 陣痛発作時に激しい痛みの訴えあり

16:38- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線 60 拍/分台の徐脈を認める

17:00 胎児機能不全のため帝王切開で児娩出

子宮の左側縦走に破裂あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 4 日

(2) 出生時体重:3100g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.63、BE -23.4mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 3 点、生後 5 分 5 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク、チューブ・バッグ)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 13 日 頭部 MRI で、大脳基底核の信号異常、多嚢胞性脳軟化症を認め、  
低酸素性虚血性脳症の診断

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名

看護スタッフ:助産師 7 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、子宮破裂による胎児低酸素・酸血症によって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。

(2) 子宮破裂の原因を解明することは困難であるが、過強陣痛の可能性を否定できない。

(3) 子宮破裂の発症時期は妊娠 38 週 4 日 16 時 30 分から 16 時 38 分頃の可能性がある。

**3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)**

**1) 妊娠経過**

妊娠中の管理は一般的である。

**2) 分娩経過**

(1) 妊娠 38 週 3 日、硬膜外無痛分娩、分娩誘発のため入院としたこと、および入院時の対応(バイタル測定、分娩監視装置装着)は、いずれも一般的である。

(2) 分娩誘発について文書を用いて説明し同意を得たことは一般的である。

(3) オキシトシン注射液の使用法(5%ブドウ糖液 500mL にオキシトシン注射液 5 単位を溶解し 5mL/時間で開始、30 分以上経過後に 10mL/時間ずつ 120mL/時間まで増量、投与中分娩監視装置連続装着)は一般的である。

(4) 硬膜外無痛分娩実施中にオキシトシン注射液を投与している状況で、胎児心拍数

陣痛図の子宮収縮波形が正確に印字されていない状態で経過観察したことは一般的ではない。

- (5) 妊娠 38 週 4 日 16 時 44 分に胎児機能不全のため帝王切開の準備とし、16 時 50 分に帝王切開を決定したことは一般的である。
- (6) 帝王切開準備から 16 分で児を娩出したことは適確である。
- (7) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (8) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。
- (2) 重症新生児仮死のため高次医療機関 NICU へ搬送としたことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 子宮収縮薬を投与しながら硬膜外無痛分娩を実施する場合は、胎児心拍数陣痛図の子宮収縮波形を正確に印字することが望まれる。
- (2) 無痛分娩の管理について検討することが望まれる。

【解説】 家族からみた経過によると「16 時に痛すぎて号泣」との記載があり、診療録においては「16 時 30 分に痛いと発作時叫び努責かからず」と記載がある。無痛分娩中に強い痛みの訴えがあった場合、子宮破裂や常位胎盤早期剥離など痛みを伴う疾患の可能性を考慮し、麻酔の範囲、痛みの部位や程度の確認を行うことが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

診療録の記載と家族からみた経過に一致しない点や家族からの疑問・質問があり、意見も多く提出されているため、医療スタッフは妊産婦や家族とより円滑なコミュニケーションが行えるよう努力することが望まれる。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

- ア. 無痛分娩の実施について、指針やガイドラインの策定が望まれる。
- イ. 子宮手術既往のない子宮破裂の発生頻度や発生状況について全国的な調査を行い、子宮破裂の関連因子および発症予防法について検討することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。